



## 緑風会 藪田啓介 議員

- 1 地球温暖化防止の取組みについて
  - (1) チームマイナス6%の活動について
  - (2) バイオディーゼル(植物由来燃料)の活用について
  - (3) 市民への啓発について

**質問1(1)** 市内における地球温暖化防止活動としてのチームマイナス6%の取り組みとレジ袋の有料化による実績はどうか。

**答弁1(1)** 環境省の温室効果ガス排出量6%削減を目標に鈴鹿市環境マネジメントシステムにより紙の削減のための電子決裁化、ノーカーダーの実施、冷暖房温度の適正化など全庁的に取り組んでいる。市内12事業者36店舗のレジ袋の有料化への協力により、開始から

28カ月で二酸化炭素1,902トン原油換算でドラム缶4,757本分の削減ができた。

**質問1(2)** バイオディーゼル燃料(植物由来化石代替燃料)の活用について。

**答弁1(2)** バイオディーゼル燃料は使用済みてんぷら油等を原料とした燃料で、本市の学校給食配送業者の三重執鬼株式会社、学校給食等の廃食油を回収、市内で製造し、学校給食の配送用車両燃料として使用しており、小学校副読本「のびゆく鈴鹿市」に掲載し環境教育に活用したい。

**質問1(3)** 市民活動、イベントなどにおける地球温暖化防止の啓発はどうか。

**答弁1(3)** 各種イベントなどへの積極的な参画を図り地球温暖化防止の広報に努めてゆく。



## 無所属クラブ 杉本 信之 議員

- 1 農林水産業の今後について
- 2 予防医療について

**質問1** 農の持つ豊かな自然環境は人々を癒し、命の本である食を提供している。それらを守っていくためにも、第1次産業の振興が大切と考える。現在の状況と今後の取り組みはどうか。又、鳥インフルエンザの対応はどうして行くのか。

**答弁1** 農林水産業は生命の源である「食」を生み出す産業であり、私たちの「命」を支えている。又、水源の涵養や美しい景観、伝統文化の継承、国土の保全、災害防止等の機能も有している。しかし従事者の減少や

高齢化が進み農地面積の減少や魚場環境の変化も起きている。お茶やサツキなどを各種イベントでPRしている。市内には26軒の養鶏農家があるが、卵は鈴鹿ブランドとして育成強化を図っている。又、鳥インフルエンザは原因は特定できていないが、消石灰の配付等を行い、県と連携しながら防除に努める。水産業では魚場環境の保全のために関係機関と連携して取り組む。

**質問2** 医療費の増加を防ぐためには、治療を中心とした医療から、予防へと転換する必要がある。ガンなどの病気にかかりにくい体を作ることが大切。

**答弁2** ガン検診や予防接種、人間ドックへの参加を呼びかけているが、検診率は低いのが現状である。介護予防事業への参加を呼びかけたり、食の指導も行なっている。



## 公明党 池上 茂樹 議員

- 1 支えあう地域づくりについて
  - 買い物弱者の支援について —
- 2 支えあう社会づくりについて
  - (1) 地域貢献ポイント制度について

**質問1(1)** 食料品等、日常の買い物に困難な状況に置かれている買い物弱者の現状と対策は。

**答弁1(1)** 県が実施した中山間地域での買い物に関するアンケートを椿・庄内・深伊沢で行った。今後、買い物弱者の状況を把握するための参考としたい。

**質問1(2)** 高齢化が最も進んでいる地域をモデル地域として、アンケート調査を実施してはどうか。

**答弁1(2)** 本市の高齢者は38,475人。アンケート調査について、今後、検討していきたい。

**質問1(3)** 市内の商店や商工会に協力を求め、宅配可能な店と商品を掲載した冊子を作成して高齢者世帯に配付できないか。

**答弁1(3)** 県で地域密着型の商業連携に関する調査を実施しており、その結果を集約し検討したい。

**質問1(4)** 買い物弱者対策としてオンデマンド交通を運行する考えは。

**答弁1(4)** 交通不便地域における新しい交通システムのあり方について協議している。

**質問2(1)** 少しの支えを必要とする方に、在宅で元気なお年寄りが、手助けをするボランティア活動に対し、ポイントとして還元する、地域貢献ポイント制度の導入の考えは。

**答弁2(1)** 高齢であることから導入には慎重になる。